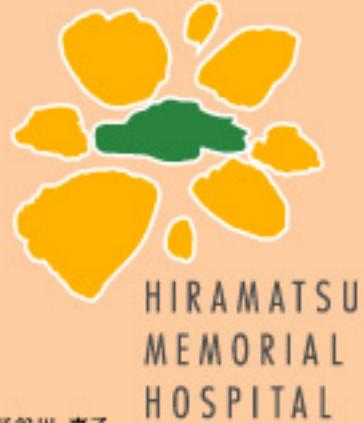


第一二号

藻岩嶺



題字：長谷川 嘉子



「藻岩嶺」発刊に寄せて 2

故平松先生との出会いは、昭和四十五年の春でした。歌集「幻日」は、戦争体験の歌から始まります。

*ありありと 今宵聞ゆる 雁の声
沁河をわたる まほろしの声 (昭和四十五年・四十七歳)

沁河とは、太平洋戦争に従軍した中国の山西省にある黄河の支流である。五十歳代に入つて、知命の歌とも言うべき次の歌を残しています。

*わが生の 潮のごとき 日も過ぎて
海湧く音を 聴きて眠らん (昭和四十七年)

第五歌集「残年」の題にした歌は、

*残年を 思う暇なし 地吹雪の
荒るる彼方へ 日の没りてゆく (昭和六十一年)

という「老いの覚悟」ともとれる凜とした歌でした。そして昭和六十三年六月の暑い日に、自宅の畑を耕している時に脳出血に襲われました。この歌集に意識回復の時の歌も載っています。

*昨日聞き 今日又聞こゆ うつつなる
沁河の谷の にわとりの声 (昭和六十三年六月)

いつの日でも戦争体験が蘇つているようだ。そして病後三年後に、静的で穏やかな歌を見ることになる。

*今年早き 藻岩の桜 散りてくる
咲きそろいたる 辛夷の間より (平成二年)

このとき先生と酒を飲んだのが最後のような気がします。先生は酒好きでもあり、私は生意気にも、この歌は藻岩の四季と共に生きた人にしか作れない歌だと言い、先生はこういう老酒のような歌がいいのではなかろうかと酔いにまかせていました。



平松記念病院
院長 宗代次

心の通った 対話を通じて 信頼関係を築く



平松記念病院
理事長
町田 荘一郎

インフォームド・コンセント

インフォームド・コンセントはわが国では、医療についての「説明と同意」と表現されています。即ち医師や医療従事者が患者さんの病名や病状、やるべき検査や治療について十分説明し、患者さんがその説明内容を理解し、納得同意した上で検査や治療を受けるという診療上の原則を言います。

インフォームド・コンセントについては、既に森岡氏の発表がありますので、それらを参考に話を進めて行きたいと思います。

従来、医療の診断・検査・治療は専門家の医師に任せ、医師は責任を持つて誠心誠意患者さんのために近くすという倫理観の下で行われてきました。しかし、医学の進歩につれて、国民のかつたり悪化したりした場合、不満や

不信感がつのるようになり、医療の在り方が批判されるようになつてきました。とりわけ民主的な社会では、個人の権利や権利の主張が高まつており、社会保障や医療保険制度の普及と相俟つて、国民は誰でも医療を受ける権利があるという考えが浸透してきています。そして、医療のことは患者さん自身が決めるもので、そのため医師は十分な情報を提供すべきで、これを基に患者さんは自由意志で医療を選択することが求められています。ある意味では、医師中心から患者さん中心の医療へといふことからもインフォームド・コンセントは大切だとの考えが強調されてきております。

歴史的にはインフォームド・コンセントはヘルシンキ宣言で、臨床研究のための被験者の人権擁護の視点から生み出されたものですが、一般的の医療でも患者さんの人権擁護のために同じであるとの考えが強まつてきました。インフォームド・コンセントは倫理的にも法律の上でも妥当とされている国が既にあります。わが国の医療法でもインフォームド・コンセントは医療担当者の努力義務と明記してあります。

そのためには医療側でも、科学的根拠に基づいた医療内容を提供すること、医療を国民と共有して内容を理解してもらうべく、社会のための専門家であるとの考えが根底になければなりません。

インフォームド・コンセントは元来患者さんの人権擁護、自己決定権尊重の考え方から出てきたものですが、わが国では患者さんの人権擁護は勿論、医師・医療従事者側と患者さんとの信頼関係を築く上で大切だと謳われています。しかし、インフォームド・コンセントには問題が無い訳ではありません。例えば患者さんが医学専門用語や内容をどこまで理解できるか、また医療方針について正しい判断がなされるなどは、非常に難しい問題です。

医療側でも例えば患者さんが検査や治療を拒否した場合、そのまま放置してよいものか、インフォームド・コンセントさえ得ていれば、どんな医療行為でも許されるのかなどといった問題が出てきます。

インフォームド・コンセントは本来、患者さん本人についてのことですが、わが国では家族と一体であるとの考えも強く、家族へのインフォームド・コンセントが優先される傾向さえ見られます。

いずれにしても、医師・医療従事者は患者さんの人権に配慮し、患者さんとの心の通つた対話を通じて信頼関係を築くことが、何よりも大切なことだと思います。

病院紹介

藻岩山の自然に抱かれ、21世紀の心の医療を担う。地域密着を目指す平松記念病院の院内を紹介します。

病棟部門

当院入院病棟は、新館1棟（老人性痴呆疾患療養病棟）、新館2・3・4棟（精神療養病棟）、第5棟（入院基本料3）の3種類の病棟があります。藻岩山の麓、中央区郊外の閑静な住宅街に位置し、療養環境としては最適な条件下にあります。病棟看護師を中心とした温かいスタッフのサポートと患者様一人ひとりの人間性と個別性を尊重した誠意ある看護を提供することにより、少しでも早い症状回復と退院後の社会復帰の促進に努めてまいります。



事務局

当院の事務は、医事・経理・庶務の3つのユニットに分かれています。今年の春には2名の新人が入る予定であり、益々平均年齢が若返るスタッフですが、経験豊富なベテランも多数おります。また、経理・庶務は病院の中核を担う部署もあります。さらには受付から会計・相談も含めて当院の「顔」となるよう努力してまいりますので、これからもよろしくお願ひいたします。何かあればお気軽にご相談いただきますようお願い申し上げます。



心理部門

当院の臨床心理士は、患者様の抱える様々な心の悩みや問題についての相談に応じています。具体的には、気持ちや悩み事の整理などを目的としてのカウンセリング、個人の性格や特徴などを知るために心理検査の実施、様々なグループ活動や精神科訪問看護への同行、デイケア・ナイトケアの活動への参加等があげられます。私たちスタッフは皆様一人ひとりが様々な悩みを乗り越えられるよう、そっと傍らにあってお手伝いしていきたいと考えております。



薬局

当院薬局では、現在5名の薬剤師と1名の助手で入院・外来の調剤業務、服薬指導、病棟業務などを実施しております。専門的知識に基づく医薬品の適正使用の推進を使命として、患者様への質の高い薬物治療に寄与するよう日々努めています。また病棟業務として、必要に応じた服薬管理指導を実施することにより、薬に対する知識と理解を深めていただき、安全で安心した服薬習慣を獲得されるよう努めています。



栄養部門

当院の栄養部門は管理栄養士1名、栄養士2名、調理スタッフ20名でデイ・ナイトケア利用者様、入院患者様への栄養管理・食事提供を行っております。治療食・食事形態の個別対応、栄養指導、行事食や週2回のセレクトメニューも導入しています。また、現在工事中の新厨房完成後は、各病棟パントリーでの盛り付けと配膳を実施することにより、さらに適温で衛生的な食事をご提供いたします。私たちスタッフ一同は一人ひとりのニーズに応じたサービスの充実に努めてまいります。



●新コーナー●

今回から新コーナーをはじめるよ。題して「SOUくんとボチのART GALLERY」。みんなが作った作品の一つ一つが、僕たちにとって大切な宝なんだ。そのお宝を紹介していくよ。まずは僕たちの自己紹介！



SOUくん



名前：SOUくん
年齢：32歳
星座：ふたご座
血液型：O型
趣味：甲子園・囲碁・ハリーポッター
特技：テニス・スキー・ソフトボール

ボチ



名前：ボチ（コリー犬）
年齢：1歳2ヶ月
星座：かに座
趣味：藻岩山の散歩・昼寝
好物：草・ヤクルト・かんゆ



さて、今回は作業療法の作品からのお宝。左側の切り絵と中央の陶芸の作品は、作業療法のメンバー達の共同作品です。2つともみんなで協力して作った大きく力強い作品に仕上がっているねえ。一番右側は絵画からの出展でT・H様の油絵です。黄色と赤の色合いが絶妙で心が惹かれます。
いかがでしたでしょうか？次回からもどんどんお宝を紹介していきますので、乞ご期待下さい！！



切り絵 作品名／夢



陶芸 作品名／かわの壺



絵画 作品名／朝焼け

たのしかった クリスマス会

12月15日に、毎年恒例の病院レクリエーション「クリスマス会」が開催されました。今年は各病棟からの合唱や寸劇、紙芝居、作業療法活動からのバンド演奏、職員によるダンスなどの発表の他、キャンドルサービスも行われました。サンタさんからは素敵なお菓子のプレゼントが用意され、楽しくロマンティックな時間を過ごすことが出来ました。

編集後記

秋には鮮やかな色彩を彩っていた藻岩の景観も、今では静寂漂う銀世界を演出しています。雪祭りは無事に閉幕し、春の風が待ち遠しい所ではあります。藻岩の衣替えはまだ先の話になります。さて、この度当院では広報誌「藻岩嶺」第2号を発刊いたしました。この広報誌を通じまして、日頃よりご協力いただいている皆様への感謝を申し上げますとともに、これからも当院に対しまして、なお一層のご理解とご支援のほどをお願い出来れば幸いに存じます。